

市民の 声

一農民としての私から、市に対する要望と、市民の方々に対するお願いなどについて簡単に記してみました。市のご回答を得られれば幸いです。

① 一昨年、私は市民相談室を通じて農道の整備のために砂利を敷いてくださるようお願いしておりましたが、その後実行してくれませんが、どの様に処理されているのでしょうか。できたら現地調査をしていただき、農道の実

状をみていただけないものでしょうか
② 市に対する要望ではありませんが、最近ハトを飼育している方で、放飼している方がおりますが、これから私たち農民は、陸稲、豆などの種まきをはじめのわけですが、この大切な種もみをハトに荒食されるおそれがありますので、ハトを飼育の方は4月から6月にかけては放し飼いをしないように心がけてくださるようお願いいたします。

市内餅田67
村尾五六(70才)

お 答 え

① いずれ、建設課、市民相談室の職員を現地に派遣して調査してから対策を講じたいと思います。(市民相談室建設課)

火の用心 ねがいます

4月から5月にかけては最も火災が起りやすい月になっております。

ちょっとした不注意が、一瞬にしてすべての財産を失うというような不幸な事体を生ずることになり、お互いに火の元には十分気をつけて欲しいものです。

ちなみに昨年の3月と今年の3月における火災件数と損害額をみてみますと次の様になっています。

39年3月、発生件数	11件
損害額	512万円
40年3月 発生件数	7件
損害額	536万円

いよいよ春です。春といいますとやはり私たち日本人に欠くことのできないものはウメとサクラでしょう。ウメが咲きうぐいすが鳴くのどかな風景、そしてサクラが満開になり、希望に胸ふくらむ春を迎えることになります。

大館市が市政施行10周年を記念して各家々に1本づつ配布したウメおよびアンズの苗木は、その後皆さんの庭でだいぶ大きく成長していることと思います。

そこで、このウメやアンズの苗木を丈夫に育てていただくために、この手入れについてお伝えします。

枝のせん定

皆さんに記念植樹していただいたウメの品種は、寒さに強いブンゴウメ(豊後梅)で、ウメとアンズの雑交によって生れ、昔から各地に栽培されている大きい

うめの手入れ

ウメです。

したがって、このウメもアンズも大体同じような手入れをしますが実のつく枝は、ウメは短かい枝に多くつきます。

アンズは長い枝につく傾向があります。

さきに苗木とともに配付しましたパンフレットに、苗木を植えたら先の方を切るように書きましたが、そのとおり切っておりますと、三方は勢力の強い枝がのびているはずで、この勢力の強い枝を三方に平等にのばして育て、自然盃形状仕立とするのが木の基本です。つまり、盃のような形になるように枝を仕立ていくのです。

ただし、同じところから3本の枝がわかれておりますと台風や大雪などで枝が

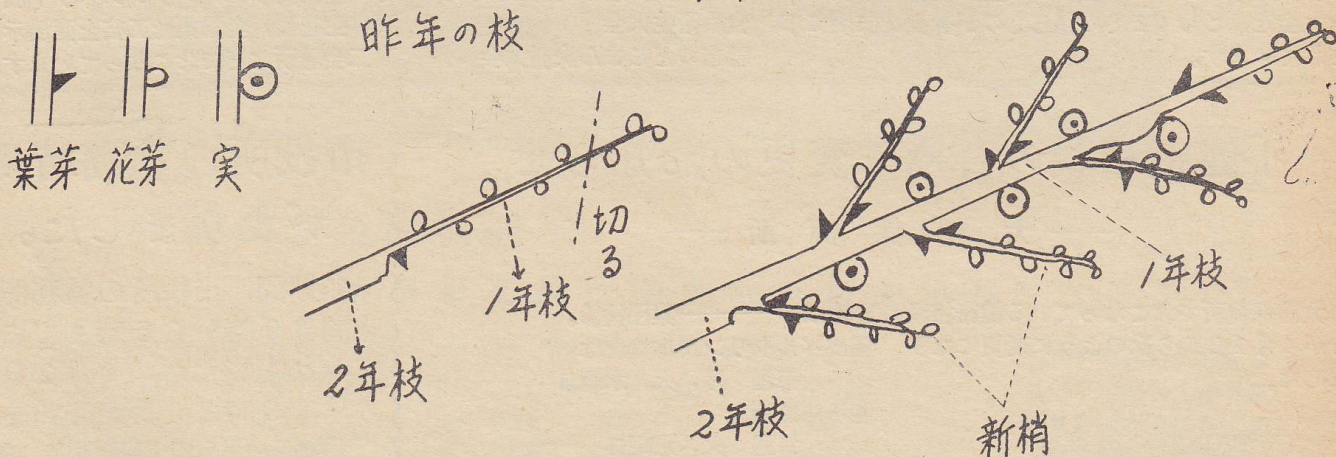
折れ、幹が裂けたりしますので注意してください。

勢力の強いこの枝の先端を、発育の程度とみてせん定し、側枝の発生を促し、細い側枝がたくさんでているものは間引のせん定をします。木の上の方に太い枝がありますと下の方の勢力が弱くなりますので、上の方は細かい充実した枝を残すようにします。むずかしいせん定は必要ありません。

ウメは前年の枝に実がつきます。このことを頭に入れて軽くせん定してください。せん定の時期は芽がまだのびない時がよいのですが、いまでもすとおくれていますので大至急せん定してください。

8月になったら徒長枝を基部から切ります。ウメは癒合のしにくい木ですのでよく切れるハサミや小刀を用い、切口が大きい場合や、むしれたり裂けたりしたところにはツギロウを塗ると万全です。

今年の枝の状態(左図の枝の1年後)



肥料は市販の化成肥料、大豆粕、米ぬか、木灰などを根元から約30cmはなした周辺に10cmくらいの深さに溝を掘ってまきます。大豆粕は約500gくらい施します。

害虫はハマキアブラムシがつきやすく、この害虫は1年に10回以上も発生し

、若葉の裏面にむらがり、葉をまき、養分を吸収して弱めるので、ついてる葉をとってつぶし、硫酸ニコチン(1000倍)をときどき散布します。

病害にはタンソ病や黒点病があり、芽を開らく前に石灰硫黄合剤を入梅前にボルドー液を散布してください。

ツギロウやこれらの薬品は薬局で販売しております。

以上の手入れ方法を守り、木のまわりを整理して、光や風がよくあたるようにしていただければ、もう1~2年で待望の実がなります。